写真１

・今回はボルトルートでクイックドロー（ヌンチャク）の掛け方を考えてみました。
・外岩では、ジムのように中間支点がセットされていないので、自分でボルトにクイックドローを掛けます。
※ロープを結んだらすぐに登りだすのではなく、登るラインとボルトとの位置関係を確認しておきましょう。
・それぞれのボルトに対し、クイックドローをどちらの手で掛けたらよいか考えて左右に振り分けておきます。
※クイックドローは、登るルートに必要な数＋２本くらい多めにもって登りましょう。

写真2

・ボルトが登るラインの右にある場合は、右手でハンガーに押し込むように掛けます。
※この時、カラビナのゲートは右を向いています。

写真3

・ボルトが登るラインの左にある場合は、左手でハンガーに押し込むように掛けます。
※この時、カラビナのゲートは左を向いています。

写真4

・ここで今一度、クイックドローの構造を確認しておきましょう（２枚のカラビナをエキスプレススリングで連結）。
※大事なことは、ボルトのハンガーに掛けるカラビナと、ロープを掛けるカラビナが区別されているということです。
・ハンガー側は、ハンガーから外れにくいようにストレートゲートで、反転防止のゴムがありません。
・ロープ側は、ロープを掛けやすいように、ベントゲートかワイヤーゲートで、反転防止のゴムがついています。
※決してハンガー側とロープ側を逆に掛けてはいけません。

写真5

・ロープ側のカラビナをハンガーに掛けると、ロープの動きによっては、あっけなく外れてしまいます。

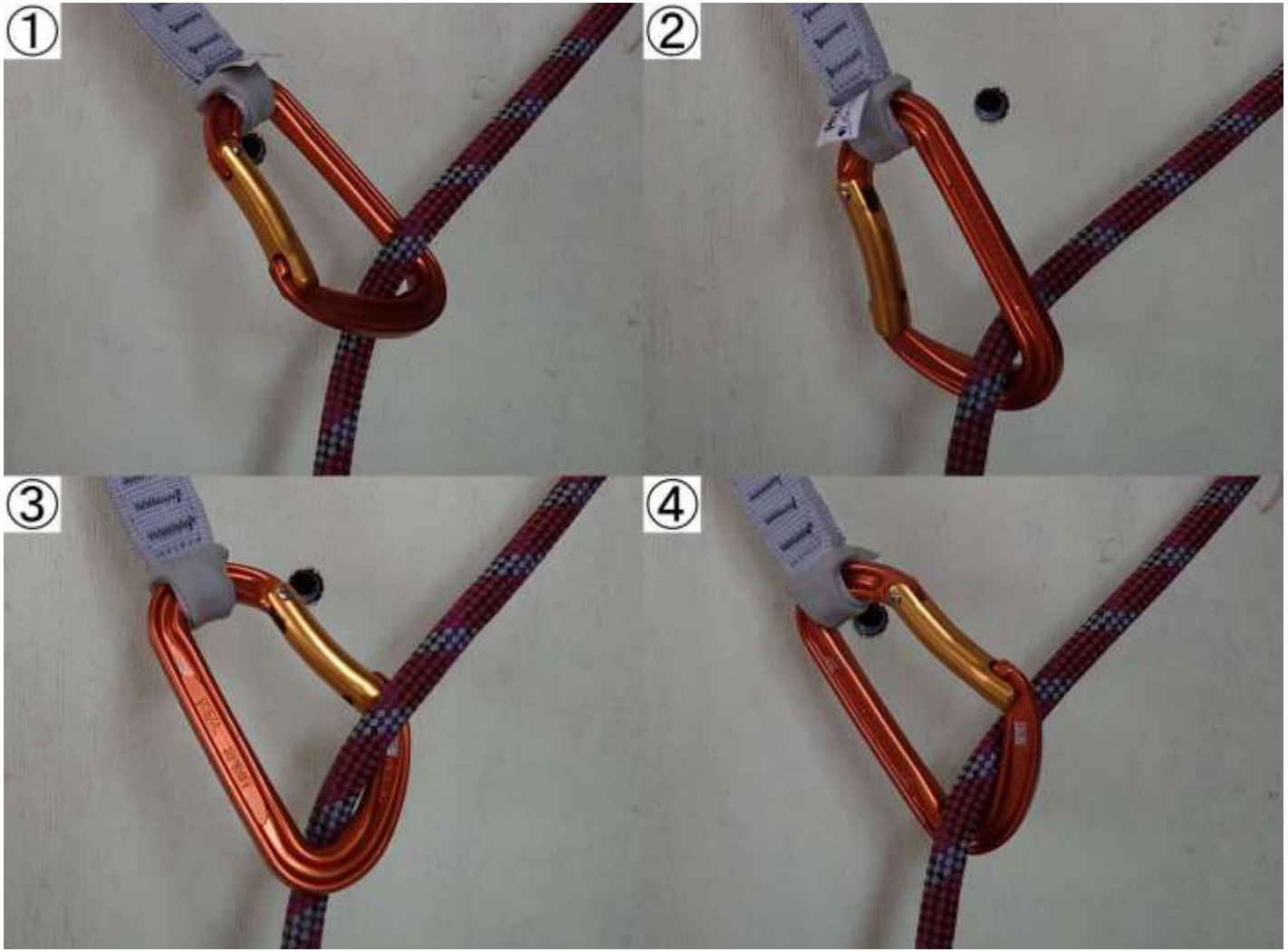
写真6

・ハンガー側のカラビナは固定されていないのでロープの動きが伝わりにくいのですが、100パーセント安心とは言えません。
※ハンガー側をワイヤーゲートにしたり、反転防止のゴムを付けたりするのは止めたほうが良いと思います。

写真7

・次に気になるのが、2枚のカラビナのゲートの向き。
※写真7－左は、どちらも同じ向き。
※写真7－右は逆向き。

写真8



・ここでABスタンダード08リードクライミング②の復習
※クライミングジムでは①と③が正しいクリップ（ロープが壁側から手前に抜けている）で、②と④が逆クリップでしたね。
・写真８－①と写真８－③の違いは、ロープを掛けるカラビナが進行方向に対して、どちらに向いているかです。

写真9

・ロープを掛けるカラビナのゲートが進行方向にむいていると、ロープに引かれてゲートが岩にあたります。
※写真9－右のように、岩角に当たると、ゲートが開いて危険です。
・外岩では、写真8の中で、本当に正しいのは①のみとなります。

写真10

・ここで2枚のカラビナの向きに戻って考えます。
・カラビナの向きが同じ場合、ロープを掛けるカラビナのゲートを正しい向きにするには、ハンガーに押し込むように掛けます。
※写真は、登るラインがボルトに対して左側という場合です。

写真11

・カラビナの向きが逆の場合は、すくう様に掛けなければならなくなります（いわゆるスクイ掛けで、お勧めできません）。
※写真は、登るラインがボルトに対して左側という場合です。

写真12

・スクイ掛けをお勧めできない理由はハンガーにゲートが引っかかりやすいからです。
※写真は、登るラインがボルトに対して右側という場合です。
・写真5と写真6の（ハンガーからクイックドローが外れてしまう）現象も、スクイ掛けの場合におきやすいです。

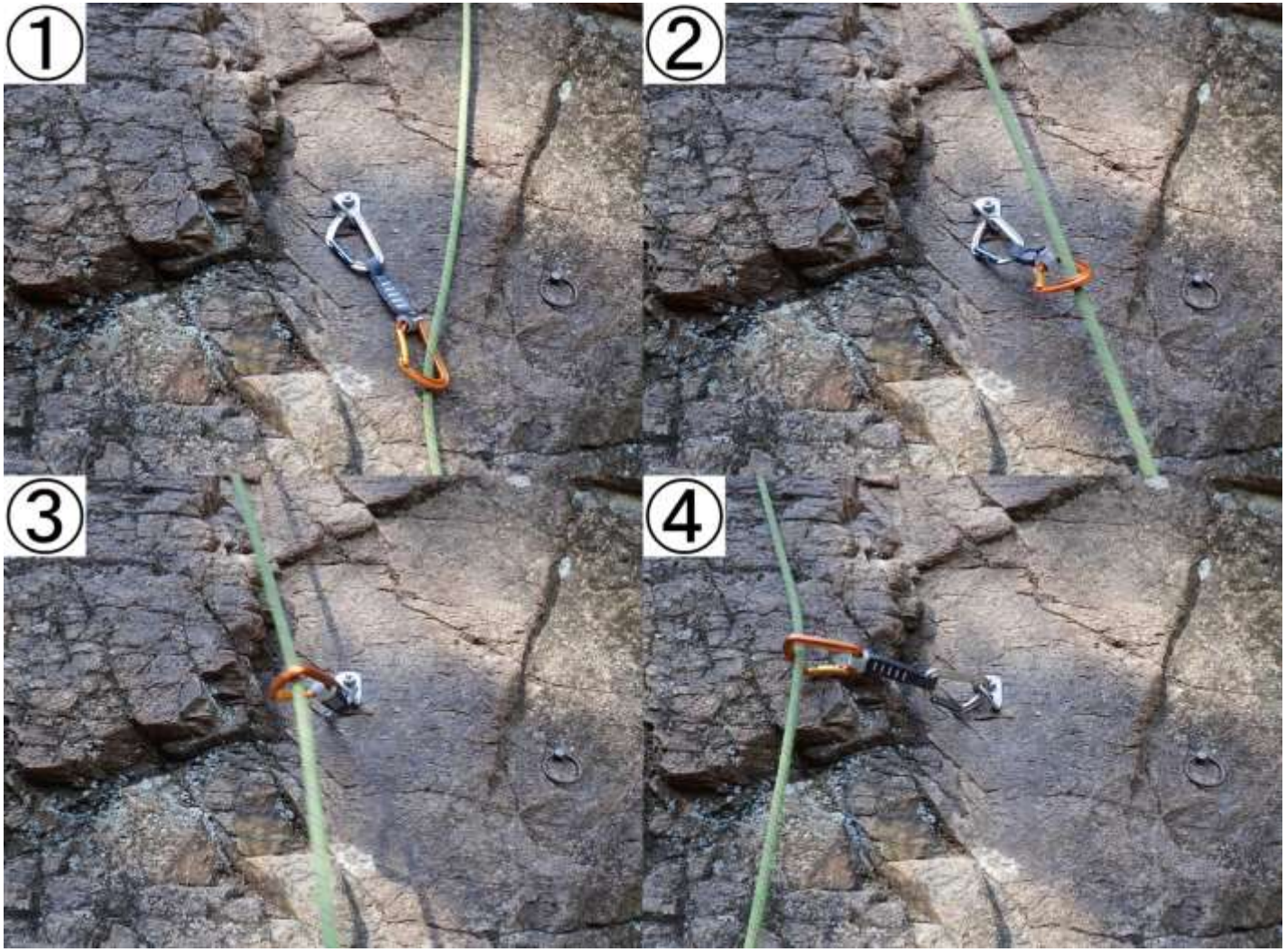
写真13

ここまでをまとめてみると、
・クイックドローの２枚のカラビナは、ゲートの向きを同じくする。
・ハンガー側はストレートゲートで、スリングに固定しない（決してハンガー側とロープ側を間違えて掛けてはいけない）。
・ハンガーには押し込むように掛ける（カラビナのゲートは登るラインの反対側）。
・当然、逆クリップにならないように、ジムでしっかり練習しておく。

写真14

・ところが基本通りに掛ければ100％安心かというと、そうでもありません（写真14ー右）。
※特にスラブ壁で注意が必要です。
※核心のムーブに入る手前では、必ず一呼吸おいて、直前の中間支点の状態を確認しましょう。
※ビレイヤーも気を付けてみていて、変だったら教えてあげましょう。

写真15



・さて、基本通りに掛けたつもりでも、いつの間にか逆（スクイ掛けと同じ）になっているということもあります（①→②→③→④）。
※たとえば、写真16のようなラインどりをする場合には注意が必要です。

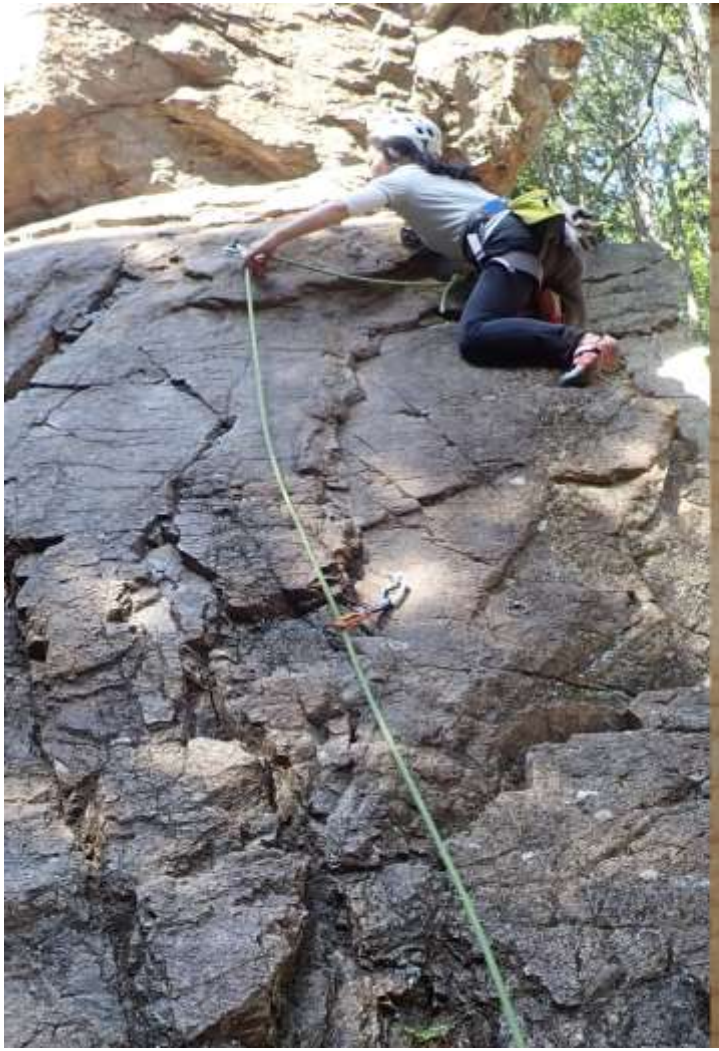
写真16

・蛇行したラインでは、スクイ掛けのリスクと墜落のリスクを天秤に掛けなければなりません。
・写真16－①と②の位置で墜落のリスクが高い場合は、基本通りに掛けてかまいません。
・逆に①、②で落ちるわけがない。核心は③だという場合、あらかじめスクイ掛けにしておけば後で直ります。
※④で2本目のクイックドローを掛ける向きは、次に進む方向で変わります。

写真17

・ここで、もう一つ基本を追加するとしたら、次のボルトの位置と反対側にゲートを向けるということです。
※次のボルト（2本目）の位置が手前のボルト（1本目）より左だったら、手前のボルトに掛けるクイックドローのゲートは右。
・登るラインを読むときには、ボルトを設置した人の意図も含めて読み取ることが大事です。
※アルパインルートではハーケンを追うな。岩の弱点（登りやすいところ）を探すんだ言われますが…。

写真18



・ただ、狭い岩場では同じボルトを複数のルートで共有することは珍しくありません（バリエーションが多い）。
※一つ一つのムーブの合間に一呼吸入れて、直前の中間支点の状態に注意を払う習慣をつけましょう。
※もし変だったら、ロープを揺すってみたり、足でつついてみたりして直しましょう。
・ここ一番ではロッキングカラビナを使う手もありです。
※製品としては見かけないので、自分で作成します（写真18－右）。